

報 告

2012 中国国際福祉博覧会・中国国際リハビリテーション博覧会

東京大学／中部学院大学 井村 保

1. はじめに・展示会概要

2012年11月15日～17日に中国国際展覽センター(北京市)で、2012中国国際福祉博覧会・中国国際リハビリテーション博覧会(Care & Rehabilitation Expo China 2012、主催：中国障害者連合会、中国全国老齡工作委员会弁公室)が開催された。

この展示会は、2006年より毎年開催され、今年が第6回目を数える。今回の展示会場は、8号館のAホール・Bホールを通して利用し、合計面積は8,880m²、また、出展は17ヶ国・地域より260社・団体、3日間を合わせての参加者は96,330人である。これは、日本では大阪市で毎年4月に開催されている「バリアフリー」に近い規模と考えていただければよいであろう。

この展示会に参加したので概要を報告する。

2. 展示会全体の様子・雑感

出展製品は、中国製品にとどまらず、馴染み深い、日系企業を含めた海外企業の現地生産品や輸入品も多数あった。また、参加者の中には、車椅子利用者や視覚障害者の姿も多く見られるとともに、「教育・就業」というカテゴリがあることから想像できるが、自らが利用できる機器を探す様子が見られた。また、衛生用品を扱うブースにも多くの家族等が訪れ介護問題への関心の高さも、日本と同じであると感じた。このような状況からは、今後の中国における福祉機器市場の拡大の機会が伺うことができる。

日本ではなじみの薄い特徴的な製品としては、電動ミニカーのような1人乗りの屋根つきカート(老年代步車)で、日本の電動カートとは違いスピードも速いものであり、市内でもしばしば見かけたものである。

3. 日本・日系企業等の出展等

9月以降の政治的な問題もあり、その対応についての不安要素も多いところではあったが、ミキ、松永製作所、カワムラサイクル等車椅子メーカ、トヨタ、日産等の自動車メーカの現地法人等の自社ブースに加え、「ジャパンパビリオン」として、日本貿易振興機構(JETRO)が取りまとめた11社からなるゾーンにも、多くの視察者が訪れた。

また、(一社)クオルトン研究所の田中理氏によるセミナー「日本の福祉用具の普及状況」も、当初の満席を越える聴衆が訪れ、急遽、椅子を追加するが、配布資料が不足する大盛況であった。



図1 ジャパンパビリオン

4. 関連情報

次回(今年)は、2013年10月10日～12日に同会場での開催が予定されている。また、この展示会以外にも、中国では、2013年3月29日～31日に2013(第3回)広州国際福祉機器展示会&広州国際リハビリ機器・技術展示会(Orthopedic & Rehacare Canton)が広州・保利世貿博覧館で、また2013年5月16日～5月18日に第8回中国国際福祉機器展(China Aid)が上海・万博展覽館2号館に開催が予定されている。同じ、アジア地域の現状を知るために、機会があれば出展・視察するのもよいと思う。

東京大学先端科学技術研究センター 私学研修員
〒153-8904 東京都目黒区駒場 4-6-1